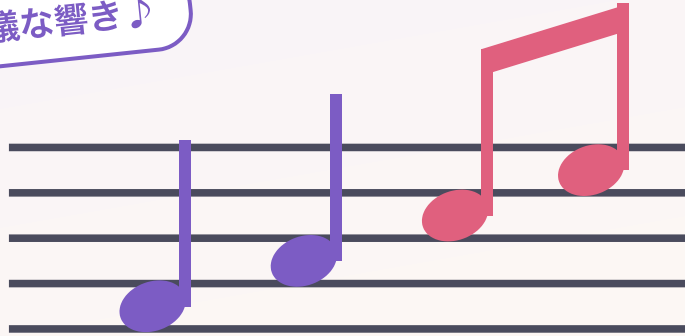


不思議な響き ♪



こんな音もあるんだ！

近現代

新しい響きをさがし続ける音楽の時代



この教材の使い方

1

声と体で感じる

音楽は、歌ったり手をたたいたりするほど身につきます。気になったところは、何度でも声に出してみましょう。

2

本物の音を聴く

この教材に出てくる曲や楽器は、音源や動画でも聴いてみましょう。耳で知ると、理解がぐっと深まります。

3

「やってみよう」は手と体で

答えは30ページにあります。正解がひとつではない問題もあります。自分の感じ方を大切にしましょう。



Ken (ケン)

音楽が好きな中学生。ギターを始めたばかり。



Emma (エマ)

カナダから来た留学生。ピアノが得意。

もくじ

近現代の入り口	3～7
新しい響き	8～14
現代音楽を聴く	15～19
練習しよう	20～24
ふり返り	25～30

近現代の音楽とは

近現代は、これまでのルールを飛びこえていった、音楽の新しい時代です。

近現代とは、**およそ1900年ごろから今まで続く**、音楽の時代です。

ロマン派までの「美しい旋律」や「決まった調」にとらわれず、作曲家たちは新しい響きやリズム、音そのものの可能性をさがし始めました。今も新しい音楽が生まれ続けています。



近現代のできごと

印象派の登場

無調音楽の広がり

電子音楽の誕生

映画音楽との結びつき

「新しい」からこそ、好き・きらいがはっきり分かれやすいのも近現代の音楽の特ちょうです。

ポイント

- ロマン派までとくらべて、音楽のスタイルがとても多様になります。
- 絵画や文学と同じく、音楽にも「新しさをさがす」動きが広がりました。

やってみよう

1. 「新しい音楽」と聞いて、どんな音を想像しますか。

書いて覚えよう

色や光のうつろいを、音で表そうとした音楽です。

impressionism

はっきりした旋律より、色や空気感を大切にした音楽の流れ

ポイント

- 絵画の印象派（色や光の一瞬をえがく画風）から名づけられました。
- 旋律よりも、和音の響きそのものの美しさが重視されます。
- 水や霧、光といった自然の情景がよく題材にされます。

やってみよう

1. 「色や光を音で表す」としたら、どんな音を思いうかべますか。

書いて覚えよう

ドビュッシー

印象派を代表する、フランスの作曲家です。

クロード・ドビュッシー

Debussy (1862～1918)

フランスの作曲家。印象派音楽を代表する存在

「月の光」

ドビュッシーのピアノ曲「月の光」は、夜の静かな情景を、やわらかい和音の重なりでえがいた作品として知られています。

ポイント

- それまでにない、ぼんやりとにじむような和音の使い方をしました。
- 自然や水の情景を題材にした作品を数多く残しています。

やってみよう

1. 「月の光」という曲名から、どんな響きを想像しますか。

書いて覚えよう

ラヴェル

緻密なオーケストラの色づかいで知られる、フランスの作曲家です。

モーリス・ラヴェル

Ravel (1875~1937)

フランスの作曲家。精密なオーケストレーションで知られる

ポイント

- 「ボレロ」は、同じリズムと旋律をくり返しながら、少しずつ楽器を増やしていく作品です。
- 楽器の組み合わせ方（オーケストレーション）が非常に精密なことで知られます。

やってみよう

1. 同じ旋律をくり返しながら少しずつ変化させる曲、というアイデアをどう思いますか。

書いて覚えよう

ロシア出身の作曲家。複雑なリズムで知られる

- バレエ音楽「春の祭典」は、初演当時、その激しいリズムと不協和音で大きな話題になりました。
- 変わり続ける拍子や、原始的な力強さを感じさせるリズムが特ちょうです。

1. 「はげしいリズム」と聞いて、どんな音楽を思いうかべますか。

美しい和音だけでなく、不協和音もひとつの表現になりました。

dissonance

音と音がぶつかり合うような、緊張感のある響き

ポイント

- それまで「きたない音」とされてきた響きも、感情や緊張を表すために使われました。
- 不協和音のあとに協和音が来ると、より解放されたような感じがします。

1. ピアノやけん盤があれば、となり合う2つの鍵盤を同時に押してみよう（なければ想像してみよう）。

書いて覚えよう

「基準となる調」をもたない音楽も生まれました。

atonality

中心になる調（キー）を決めずに書かれた音楽

- それまでの音楽は、たいてい1つの調を中心に組み立てられていました。
- 無調の音楽は、その決まりから自由になろうとした試みのひとつです。
- はじめて聴くと不思議に感じますが、慣れると独特の緊張感を楽しめます。

1. 「決まりから自由になる」という考え方を、どう思いますか。

書いて覚えよう

拍子やリズムも、自由に冒険する時代になりました。

A musical staff with six notes. The first, second, and fourth notes are quarter notes (represented by a vertical line and a dot). The third, fifth, and sixth notes are eighth notes (represented by a vertical line, a dot, and a flag). The notes are labeled from left to right: タン, タン, タ, タン, タ, タ.

10

ミニマル・ミュージック

短いパターンをくり返ししながら、少しずつ変化させる音楽です。

ミニマル・ミュージック

minimal music

短い音のパターンをくり返し、少しずつ変化させていく音楽

ポイント

- 1つのパターンがくり返される中で、少しずつずれていく面白さがあります。
- 20世紀後半のアメリカを中心に発展した、比較的新しい音楽の流れです。

やってみよう

1. 同じ言葉を少しずつテンポを変えながらくり返し言ってみよう。

書いて覚えよう

電子音楽の誕生

楽器を使わずに、音そのものをつくる音楽が生まれました。

電子音楽

electronic music

電子的な機器で音を合成したり加工したりしてつくる音楽

ポイント

- 20世紀の半ばから、機械によって音を生み出す試みが始まりました。
- 自然の楽器では出せない、まったく新しい音色をつくることができます。
- 現在のシンセサイザーやコンピューター音楽にもつながっています。

やってみよう

1. 生活の中で聞こえる、電子的な音を3つ書いてみよう。

書いて覚えよう

- 緊張感を出す不協和音や、場面ごとに変わる響きは、映画の演出にも役立てられます。
- オーケストラの色あざやかな音づかいは、映像の世界観づくりに欠かせません。
- 近現代の作曲家の中には、映画音楽を手がけた人もいます。

1. こわい場面・楽しい場面、それぞれにどんな音楽が合うか考えてみよう。

日本の近現代の作曲家

日本にも、世界で高く評価された近現代の作曲家がいます。

武満徹（たけみつ とおる）

Takemitsu Toru (1930~1996)

日本の作曲家。世界的に高く評価された近現代の作品を残した

ポイント

- 西洋の作曲技法と、日本の音や間（ま）の感覚を結びつけた作品を残しました。
- オーケストラ曲だけでなく、映画音楽も数多く手がけました。

やってみよう

1. 日本らしさを音楽で表すとしたら、どんな音を使いたいですか。

書いて覚えよう

現代音楽の聴き方

「わかる・わからない」より、「感じる」ことを大切にしましょう。

- | | | |
|---|---------------|----------------|
| ① | どんな響きに聴こえる？ | 美しい・不思議・こわい など |
| ② | 拍は感じられる？ | 一定か、変化しているか |
| ③ | どんな場面を思いうかべる？ | 自由に想像してみる |
| ④ | 好き？ 好きじゃない？ | 自分の感覚を大切にする |

ポイント

- 「正しい聴き方」を探すより、まず自分がどう感じたかに注目しましょう。
- 好きじゃないと感じても、それも立派な音楽との出会いのひとつです。

やってみよう

1. 近現代の曲を1曲聴いて、①～④のうち1つに注目してみよう。

書いて覚えよう

- 円や図形、色を使って音を表す「図形楽譜」を用いる作曲家もいます。
- 演奏者の自由な解釈にゆだねる部分を、あえて残す作品もあります。
- 楽譜のあり方そのものを問い直す試みも、近現代の音楽の特ちょうです。

1. 自分の気持ちを、音符ではなく絵や図形で表すとしたらどう描きますか。

音を出さないことも、作品になった時代です。

《4分33秒》

アメリカの作曲家ジョン・ケージは、演奏者が楽器の前に座ったまま音を出さない《4分33秒》という作品を発表しました。会場の物音や静けさそのものを、音楽として聴かせる試みです。

ポイント

- 「音楽とは何か」を問い直す作品として、今も語り続けられています。
- 静けさの中の音に耳をすませることも、音楽の楽しみ方のひとつです。

やってみよう

1. 1分間目を閉じて、聞こえてきた音を書こう。

書いて覚えよう

ドビュッシーの、夜の静けさをえがく
ピアノ曲

ラヴェルの、同じ旋律をくり返しながら盛り上げる曲

ストラヴィンスキーの、力強いリズム
のバレエ音楽

ポイント

- まずはこの3曲から聴き始めると、近現代の幅広さがつかみやすくなります。
- 同じ「近現代」でも、作曲家によって響きは大きく異なります。

やってみよう

1. 3曲のうち、聴いてみたいものを1つえらぼう。

書いて覚えよう

音楽の歴史は、今この瞬間も続いています。

実際にやってみよう・ペアやグループで練習しよう

自由な音のやりとりを、体験してみよう。

- A (自由な音) 好きな高さで「あー」と声を出す
- B (別の音を重ねる) ちがう高さで「あー」と声を出す
- A (音を止める) 静かにする
- B (そのまま続ける) _____
- A (新しいリズムで手拍子) 不規則にたたく
- B (まねして) _____

ポイント

- 決まった正解がない中で、自由に音を出し合う遊びです。
- 「合っている・まちがっている」ではなく、響きの変化そのものを楽しみましょう。

ワンポイント 不協和音も、こわがらずに一度声に出してみると、意外な発見があります。

書いて覚えよう

よくあるつまずき・上達のコツ

聴きなれない響きも、コツをつかめば楽しめます。

つまずき

よくあること

旋律が聴き取れない

はっきりしない曲がある

どう感じればいいのかわからない

正解を探してしまう

コツ

こうしてみよう

響きの色や質感を聴く

旋律以外にも注目する

自分の感覚を信じる

好き・きらいでもOK

ポイント

- 「わからない」と感じることも、近現代の音楽との自然な出会い方のひとつです。
- 何度か聴くうちに、少しずつ耳が慣れていきます。

やってみよう

1. 近現代の曲を聴いて、正直な感想を1つ書こう。

書いて覚えよう

用語をおさらい

この教材で出てきた言葉を確認しよう。

作曲家

☐ ドビュッシー

印象派を代表するフランスの作曲家

☐ ラヴェル

精密なオーケストレーションで知られる

☐ ストラヴィンスキー

複雑なリズムで知られる

響き

☐ 不協和音

音がぶつかり合う緊張感のある響き

☐ 無調

中心の調をもたない音楽

流れ

☐ 印象派

色や光のうつろいを表す音楽

☐ ミニマル・ミュージック

短いパターンをくり返す音楽

新しい試み

☐ 電子音楽

機器で音をつくる音楽

☐ 図形楽譜

図形や色で音を表す楽譜

ワンポイント 覚えた言葉に✓をつけよう。言葉を知ると、近現代の曲がもっと味わい深くなります。

書いて覚えよう

復習クイズ

ここまでの内容をチェックしよう。

1. 言葉と意味を線でむすぼう

- | | | |
|-------------|---|---------------------|
| 不協和音 | ● | ア. 短いパターンをくり返す音楽 |
| 無調 | ● | イ. 図形や色で音を表す楽譜 |
| 電子音楽 | ● | ウ. 音がぶつかり合う緊張感のある響き |
| ミニマル・ミュージック | ● | エ. 中心の調をもたない音楽 |
| 図形楽譜 | ● | オ. 機器で音をつくる音楽 |

2. 近現代の作曲家を3人書こう

1. _____
2. _____
3. _____

3. 正しいほうに○をつけよう

1. 色や光のうつろいを表す音楽 → (印象派 / 国民楽派)
2. 中心の調をもたない音楽 → (無調 / 協奏曲)

書いて覚えよう

近現代の曲を1曲、聴いて1日をスタート

身のまわりの電子音に耳をすませる

不規則なリズムをつかって手拍子する

気に入った作曲家を1人書き出す

聴いた曲の感想をノートに書く

家族にドビュッシーの曲を紹介する

ポイント

- 1回5分でも、毎日続けることがいちばんの力になります。
- 同じ曲を何度も聴くと、新しい響きに少しずつ慣れていきます。

書いて覚えよう

発表してみよう・感想を書こう

好きな近現代の曲を、人に伝えてみよう。

曲名

作曲家

好きなところ

感じたこと

聴いてほしい人

Ken の例

曲名 「ボレロ」より一部／作曲家 ラヴェル／好きなところ 少しずつ盛り上がるところ／感じたこと 音がだんだん大きくなる高ようかん／聴いてほしい人 盛り上がる曲が好きな友だち

感想を3文で書こう

① この曲は、～な感じがしました。② とくに、～のところが印象に残りました。③ それは、～からです。

書いて覚えよう

もっと知りたい人へ・次のステップ

近現代の世界は、ここからどんどん広がります。

もっと知りたい人へ

動画で

演奏の映像をじっくり見る

図書館で

作曲家の本を借りてみる

演奏会へ

現代音楽の演奏会をさがす

次のステップ

ジャズ

また別の新しい音楽の流れを知る

電子音楽

音そのものをつくってみる

日本の作曲家

武満徹の作品を聴きこむ

ポイント

- この教材の次は「ジャズ」。近現代とはまたちがう、自由な即興の世界へ進みます。

書いて覚えよう

1. 近現代の音楽とは、どんなものですか。 _____
2. 作曲家の中で、いちばん気になったのは？ _____
3. これから聴いてみたい曲は？ _____

好きな近現代の曲を友だちに紹介する

できたミッションに✓をつけよう： ☐1 ☐2 ☐3 ☐4

29

近現代チャレンジ

教室の外でも、近現代の響きはすぐに楽しめます。

見つけよう

身のまわりの電子的な音をさがす

聴こう

はじめて聴くタイプの曲を1つ聴いてみる

表そう

不規則なリズムを手拍子でつくってみる

こたえ

L26 不協和音→ウ 無調→エ 電子音楽→オ ミニマル・ミュージック→ア 図形楽譜→イ 2. ドビュッシー / ラヴェル / ストラヴィンスキー 3. 印象派 / 無調

L33 (例) 近現代は、1900年ごろから今まで、新しい響きやリズムをさがし続けている音楽の時代。

書いて覚えよう

近現代 (Season 6 | No.56)

発行：一般社団法人文化芸術支援協会

この教材の著作権は一般社団法人文化芸術支援協会に帰属します。個人の学習および家庭内での利用に限り、閲覧・保存・印刷ができます。

有料の講座・塾・研修での使用、販売・再配布、改変しての公開、生成AIへの入力などの商用利用は禁止しています。

くわしくは当協会ウェブサイトの「ウェブサイト利用規約」をご覧ください。